

外衣における実態調査

— 入学時を主として —

加藤 恵子・近藤 章子

Investigation on the Real Condition of Clothing

— Chiefly the First Year Students
of Nagoya Women's Junior College —

Keiko KATŌ and Akiko KONDŌ

緒 言

中学校・高等学校生活では、通学服は全員制服であった。高等学校卒業と同時にこれからの衣生活は制服以外の自由な衣生活が始まる。

昨今のミニ・スカート旋風も今や衰退期に入っているといわれ、最近は大・スカート、ロング・スカートに盛行の傾向がみられ、一般購買力が低下している中で、被服産業は大いに活気づいているといわれる。このような時に入学してくる学生が入学式の外衣（下着、肌着ははぶく）について、衣生活設計をどのようにしているか、さらに1カ月間の着用状況の調査を行ない、実態を明らかにし、今後の被服設計の指導の一助を目的として行なった。

調 査 方 法

調査対象…昭和50年4月に入学した被服コースの学生 113名

調査時期…昭和50年4月12日より5月11日まで

調査方法…Ⅰ. 入学式の着用状況調査

1) 概況, 2) 組み合わせ, 3) 衿の型, 4) 袖口の型, 5) スカートの型, 6) スカートの丈, 7) アクセサリー, 8) 主調色, 9) 柄, 10) 購入の目標, 11) 調製方法, 12) 購入先, 13) 価格, 14) 取り扱い表示, 15) 着用状況, 16) 着用予定についてアンケート調査をし、集計を行なった。

Ⅱ. 1カ月間の着用状況調査

1) 服種別着用枚数と着用度, 2) 組み合わせ, 3) 式服着用状況, 4) 着用しない服種について、毎日着用した衣服を記録用紙に記録させ、集計を行なった。

結果および考察

Ⅰ. 入学式の着用状況調査

1. 調 査 概 況

調査対象者の入学前の生活地区は表1である。愛知県内と名古屋市内在住で約63%を占めている。表2の地域別にみると住宅地域が58%を占めている。4月12日の入学式当日の気象

状況は表3である。

表1 地区		表2 地域		表3 気象状況	
地区	%	地域	%	最高気温	20.4°
名古屋市内	26.3	住宅	57.5	最低気温	7.6°
愛知	36.8	商業	9.7	湿度	平均52%
岐阜	19.3	農業	25.7	天気概況	日中晴一時曇
三重	12.3	工業	4.4		
その他	5.3	無記入	2.7		

2. 入学式の衣服

1) 組み合わせ方

表4 組み合わせ方

服種	%
ワンピース	36.3
スーツ	8.8
アンサンブル	1.8
ワンピース+ブレザー	1.8
ジャンパースカート+ブラウス	0.9
スーツ(スリーピース)+ブラウス	37.9
スカート+ブラウス+ブレザー	4.4
スカート+セーター+カーディガン	0.9
スカート+ブラウス+カーディガン(セーター)	1.8
スラックス+ブラウス+ベスト	0.9
スーツ+ブラウス+ベスト	0.9
スカート+ブラウス+ベスト+ジャケット	2.7
スカート+ブラウス+セーター+ブレザー	0.9

式当日の衣服についてみた結果表4のようである。組み合わせは1種類から4種類にわたって組み合わせて着用しており、ブラウスとスーツの組み合わせが37.9%と最も高く、ついでワンピースの36.3%であった。

2) 衿の型

衿の型は衿なしと衿のデザイン画を81種類プリントしたものを、前もって配布し、服種別に集計した。1型は衿なしのカラー類、2型は衿腰のないカラー類、3型はショールカラー類、4型は台衿つきカラー類、5型はテラー・カラー、シャツ・カラー等の前身頃がV型に明いたカラー

類、6型はバンド・カラー類、7型はボウ型のもの、8型はドレープをしたものの8種類(以下記号で略す)に分類して現わした結果が図1である。ブラウスは4型、ワンピースでは3型、スーツ、ブレザーでは5型が最も高く現われた。

5, 4, 3型がいずれの服種にも使用されていた。また全体でみると5型が34.6%と最も高く、ついで4, 3型の順に好まれていた。

3) 袖口の型

袖口のデザイン画を64種類プリントしたものを前もって配布し、服種別に集計した。I型はカフスつき、ロ型は折り返しのカフスつき、ハ型はカフスなしの3種類(以下記号で略す)に型態別に示したのが図2である。I型ではブラウスの96.5%、ワンピースの55.0%、

記号	服種 ガラーの型	%				平均
		ブラウス	ワンピース	スーツ	ブレザー ジャケット	
1		3.6	7.3	—	—	3.2
2		3.6	19.5	1.9	—	6.9
3		16.1	36.6	7.5	22.2	18.9
4		44.6	17.2	15.1	11.1	25.8
5		10.7	7.3	75.5	66.7	34.6
6		—	7.3	—	—	1.8
7		—	2.4	—	—	0.6
8		21.4	2.4	—	—	8.2

図1 カラーの型

記号	服種 袖口の型	%				平均
		ブラウス	ワンピース	スーツ	ブレザー ジャケット	
イ		96.5	55.0	2.0	22.2	51.3
ロ		3.5	35.0	12.0	11.1	14.7
ハ		—	10.0	86.0	66.7	34.0

図2 袖口の型

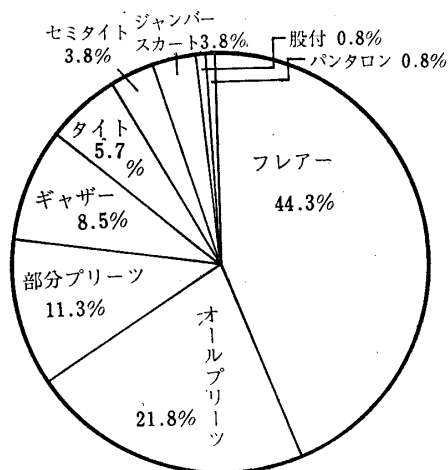


図3 スカートの型

に最も高く、ハ型ではスーツの86.0%、ブレザーの66.7%に高率を示した。三型のうち、イ型が51.3%と半数を占め、ついでハ型であった。カラーの型と同傾向がみられた。

4) スカートの型

スカートの型は、デザイン画を34種類プリントしたものを前もって配布した結果、着用したスカートは14種類にみられた。図3のようにフレアー・スカートが44.3%と最も多く、ついでオール・プリーツで上記2種類を加え約65%を占めている。これはいままでの学校生活では裾幅の広いスカートを着用していたため、また今流行のフレアー・スカートやビッグ・スカートの影響と思われる。

5) スカート丈

ミニ・スカートが昭和40年より現われて長く続いていたが、昨今のロング・スカート、ビッグ・スカートが盛行しつつある現在、スカート丈はどのくらいか興味があった。スカート丈は膝高を中央点として、膝上、膝下を5分類に分けた結果表5である。最も多いのは膝下10cmま

表5 スカートの丈

部 位	膝関節高	膝 下		
		~10cm	~20cm	21cm以上
%	8.9	53.6	32.1	4.5

での53.6%で、さらに20cmまで加えると約85%を占めている。工技院資料の19才女子の膝関節高は39.26cmであり、スカートの最長丈が35cm

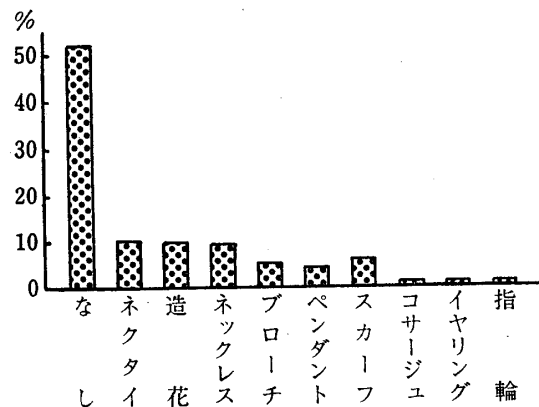


図4 アクセサリー

であった。スカート丈はミニからロングへと移行しつつあることがここでもいえる。

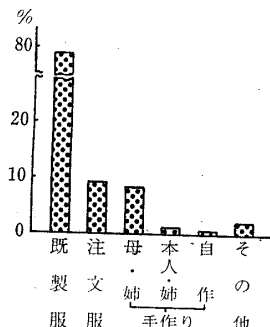


図5 調製方法

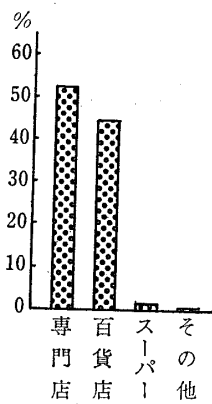


図6 購入先

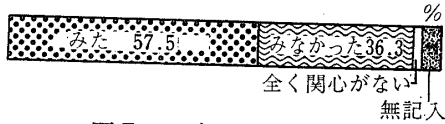


図7 表示図

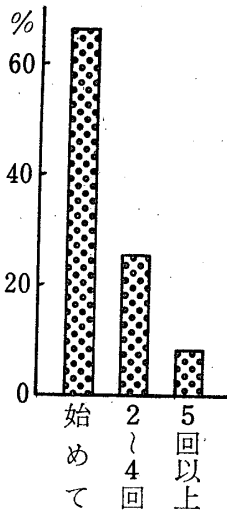


図8 着用状況

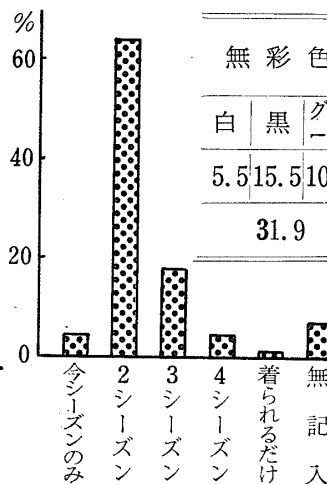


図9 着用予定図

表7 服種別柄

服種	柄			
	無地	格子	模様	縞
ブラウス	79.2	1.9	13.2	5.7
ベスト	50.0	33.3	16.7	—
ブレザー	50.0	50.0	—	—
ワンピース	80.0	20.0	—	—
スーツ	49.0	40.8	6.1	4.1
スカート	44.4	44.4	—	1.2
ジャンパースカート	100.0	—	—	—
パンタロン	100.0	—	—	—
平均	61.5	25.3	9.6	3.6

3. 付属品, その他

1) アクセサリー

着装上, アクセサリーでアクセントとする場合が多く, そのつけ方で各人の個性が表現されるのが一般的な理解であるが, 図4のように「なし」が51.7%で最も高率であった。これは過去の衣生活ではつける習慣がなく, 関心が薄いものと思われる。ネクタイの10.3%は図1の4型, すなわち台衿つきカラーに付けたものと思われる。

2) 主調色

衣服の中に最も多く使われている色を主調色とした結果, 表6のように暖色が46.5%と最も多くみられ, ついで無彩色の31.9%であった。

表6 主調色

無彩色		暖色					寒色			中性色	無記入		
白	黒	グレー	ピンク	赤	オレンジ	クリーム	ベージュ	茶	空	紺		ブルー	緑
5.5	15.5	10.9	5.5	5.5	1.8	0.9	15.5	17.3	2.7	2.7	0.9	14.5	0.8
31.9		46.5					6.3						

そのうち, 茶, ベージュ, 黒, 緑, グレーの順にみられた。暖色, 無彩色をドミナントカラー, すなわち主調色として選んでいた。

3) 柄

服種別, 柄別について調べた結果表7のようである。柄別にみると無地に61.5%と最も多く, ついで格子の25.3%であった。服種別にみるとブラウス, スーツはいずれにもみられた。

以上は入学式の被服の状況を現わした。

4. 購入, 着用状況

つぎに購入から着用までについて調べた結果である。

1) 購入の目標

衣服の購入(作る)に当って, どのような点について考慮したか自由記入形式で回答を求めた結果表8のよう

表8 購入のポイント

ポイント	%
式服として	6.4
デザイン	33.9
色彩	21.5
体型・個性	4.3
サイズ	4.3
外観	29.6

ある。デザイン、外観、色彩の順に高率を占めている。これは入学式らしい華やかさを求めるためと考えられる。式服として始めから作ったのは6.4%であった。

2) 調製方法

調製方法についてみると、図5のように既製服の78.0%が最も高く、全体の3/4を占め、ついで母と姉、本人と母、自作のいわゆる手作りが10.0%を占めている。

3) 購入先

既製服を購入した場合の購入先について調べた結果図6のようである。専門店が52.8%と半数を占め、ついで百貨店の44.2%で、合わせて97%を占め、色、デザイン、サイズ等豊富であり入手しやすいためと考えられる。

4) 1人当り価格

表9 価格(1人当り)

金額	%
1,500円～	3.5
5,000 ～	14.9
10,000 ～	24.6
15,000 ～	16.7
20,000 ～	22.8
25,000 ～	11.4
30,000 ～	3.5
不明	2.6

着用した衣服の価格はどのくらい使用したか調べた結果、表9のようである。15,000円前後が高率であり、最高額は38,000円で注文服のワンピースであった。最低は1,500円の手作りであった。

5) 取り扱い表示

J I S 規格によって取り扱い絵表示が規則を定めて商品に貼付されている。中学校、高等学校ですでに学んでいるが、どのくらい関心を持っているか調べた結果、図7のようである。「みた」は57.5%を占めていた。

6) 着用状況

入学式のために新調はどのくらいしているかみると、図8のようである。「始めて」が66.3%、2～4回目が25.5%であった。

7) 着用予定

数年前まではものの使い捨てるの傾向が強くあらわれていたが、石油ショック以来資源節約ムードの強い中で、何シーズン着用する予定でいるか調べた結果、図9のようである。2シーズンが64.2%と最も高く、ついで3シーズンの18.3%であった。

II. 1カ月間の着用状況調査

日常の着装の中で4月12日着装した服(以下式服と略す)の着用状況を中心に、気象などを考慮して1カ月間調べた結果、下記のようにであった。

1) 服種別着用枚数と着用度

服種のうち、最も長く着用した衣服を調べた結果表10のようである。ブラウス、スカートは他の服種に比べ、着用枚数、着用度も高く、短大生の日常服としてブラウスとスカートの組み合わせが好まれていることが見受けられる。最高着用枚数においてはブラウスの16枚、スカートの12枚が他に比べ多い。ジーパン着用枚数は1人平均1.2枚と少ないが、着用度は63.2と高い。これは日常着として活動しやすさ、木綿で手軽に洗える、衣裳習慣の革新感を与える等で好まれる結果と考えられる。またセーター、ベストは着用度が高く現われているのは、4～5月の気候でブラウスの上に重ねて着用したものと考えられる。

2) 組み合わせ方

表10 1カ月間の服種別着用枚数と着用度

服種	一人平均着用枚数	着用度	最高着用枚数
ブラウス	5.7	94.7	16
カッターシャツ	1.4	40.0	8
Tシャツ	0.9	35.8	5
ベスト	1.5	65.3	6
セーター	1.9	65.3	9
トレーナー	0.5	28.4	3
カーディガン	1.1	35.8	4
ジャンパー	0.1	5.3	2
ブレザー	0.3	16.8	3
ジャケット	0.5	20.0	5
ワンピース	1.1	52.6	5
スーツ	0.4	23.2	4
ジャンパースカート	0.3	16.8	6
スカート	5.6	94.7	12
ジーパン	1.2	63.2	5
パンタロン	0.4	14.7	7

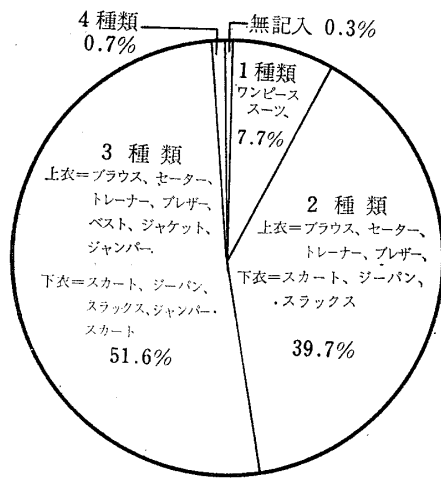


図10 組み合わせ方

表11 式服着用度

回数	%
0	27.4
1	22.1
2	8.4
3	3.2
4	3.2
5	1.1
他との組み合わせ	34.7

組み合わせ形式は着装の構成によって分類し、1種類はワンピース、スーツ、2種類は下半身にスカート、スラックス、ジーパン、ジャンパースカート等、上衣がブラウス、セーター、ブレザー、トレーナー、セーター等のいずれか2種類の別服種の組み合わせ、3種類は下衣を1種類、上衣は2種類の組み合わせ、4種類は下衣を1種類、上衣は3種類の組み合わせとした結果、図10のようである。3種類の組み合わせが51.6%と最も多く、ついで2種類の39.7%であった。また下衣の組み合わせ方法のみでみるとスカートが67.8%、ジーパンの11.0%であった。

3) 式服着用状況

調査用紙の中に式服を着用した場合、括弧でかこむようにして調べた結果、表11のようである。一度も着ないすなわち「0回」が27.4%を占め、ついで「他のものと組み合わせ」で着用したのが34.7%であった。

式服を着用したのは39%を占め、そのうち「1回だけ」が22.1%と高率を占めている。

4) 着用しない服種

表11で「着用しなかった」のが27.4%みられたので服種はどんなものか調べた結果、表12のようである。ワンピースが最も多く69.2%で、ついでブラウスとスーツの組み合わせであった。これらの着用しなかった学生に聞いた結果、ドレッシーすぎる、色がきれいすぎる、他のものと組み合わせができない、式服として作った、日常着として適さない等の理由があげられた。

表12 式服・着用なしの服種

服種	%
ワンピース	69.2
ブラウス+スーツ	11.5
スーツ	7.7
ブレザー+ジャンパースカート	3.8
ブレザー+カッターシャツ+スカート	3.8
アンサンブル	3.8

要 約

以上をまとめると、

1. 入学式に着用した衣服は、スーツとブラウスの組み合わせ、ついでワンピースが多くみられ、衿の型はブラウスは台衿つきカラー、ワンピースはショール・カラー、スーツ、ブレザーはテラー・カラーが多く、袖口の型はブラウス、ワンピースはカフスつき、スーツ、ジャケットは普通袖が高率であった。またスカートはフレアー・スカート、オール・プリーツの裾幅が広く、丈は膝下10cmが好まれていた。
2. アクセサリー類は「つけなかった」が約半数であり、主調色は茶、ベージュ、黒、緑が多く、柄についてみると無地が半数以上を占めていた。
3. 購入する場合のポイントは63.5%の人がデザイン、外観について重視していた。調製方法は既製服が約 $\frac{3}{4}$ を占め、専門店と百貨店で97%が購入していた。購入価格についてみると、38,000円が最高で注文服であった。J I S 規格による取り扱い絵表示を見たのは57.5%であった。
4. 1カ月間の着用状況についてみると、1人平均着用枚数は最高ブラウスの6.0枚、着用率はブラウス、カートの94.7%であった。また日常の組み合わせ衣服は三服種が51.6%であった。
5. 式服着用頻度は0回が27.4%みられ、そのうち「着用しなかった服種」はワンピースの69.2%と高率であった。

以上の結果、ライフサイクル、すなわち「モードの寿命」が短くなりつつある中で、被服設計上、合理的、経済的な衣生活をするのが増々重視されなければならない。そのような点について今後深く研究を進めていきたい。

本調査に御協力下さった学生諸氏に深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 水梨サワ子：被服構成学 p.50~57 (朝倉書店)
橋本貴美子：家政研究 p.1~10 三重短期大学家政研究会 (1963)
橋本貴美子他：家政研究 p.8~16 三重短期大学家政研究会 (1964)
木下武人他：福岡女子短大紀要 No.7 p.49~61